

記録法：経時記録の簡易項目化版

～介護記録の改善に向けて～



学校法人 滋慶学園 東京都認可の専門学校

東京福祉専門学校

副学校長 白井孝子

研修プロローグ ①

■現在の介護福祉施設等現場の記録とその背景

- ・ 統一的な記載方法が存在せず、叙述的な内容が多い。
（ここでいう叙述的とは、物事について順を追って述べたもの）
- ・ 介護職員個々の記録に関する力量の差がある。
今必要な情報、今後必要な情報、情報が混在。

■今後求められる介護福祉施設等現場の記録

- ・ 介護の質を向上させる基本となる記録の蓄積が必要。
利用者本位・自立支援・介護予防を基本軸として。
- ・ 多職種連携における記録の共有が必要となる。
情報共有・介護の質向上につながる。

研修プロローグ ②

■現在の介護福祉施設等現場の記録例

利用者山田様の食事の場面

介護職員Aの記録	介護職員Bの記録
12:00 山田さんは、今日の献立に「嫌いなものがある」と言って、食事のほとんどを残してしまった。途中から、介助しようとしたが口を開けてくれない。麦茶は全量摂取した。	12:00 食事摂取ほとんどせず。介助に応じず。麦茶全量摂取。

一定の記録方法が明確でないので、介護職員により記述方法が異なる場合がある。

➡介護行為後の必要な情報は何か。全体像の記録がないと、他者には必要な情報がみえにくい。

研修プロローグ ③

【利用者情報】

東京花様。（女性、88歳） 脳梗塞の既往、右片麻痺。失語症。
要介護5。障害高齢者の日常生活自立度C2。認知症なし。

【ある日の介護職員の着脱介助時の記録】

介護職員Aの記録	介護職員Bの記録
(14:00入浴後) 着衣後、衣類を整え、着心地を確認した。	(14:00入浴後) 臀部、背部に発赤なし。最後に衣類全体の皺を確認し、本人に着心地の確認。東京さん、うなずき笑顔があった。

研修プロローグ ④

■ 良いところ、改善が必要なところを考えてみよう。

介護職員A の記録	介護職員B の記録
着衣後、衣類を整え、着心地を確認した。	臀部、背部に発赤なし。 <u>最後に衣類全体の皺を確認し、本人に着心地の確認。</u> 東京さん、うなずき笑顔があった。

【介護職員 A】

- ・ 片麻痺、要介護 5、C2。という情報から皮膚の状態確認は欲しい情報。
- ・ 行ったことの記録は読みやすい。

【介護職員 B】

- ・ 皮膚の状態観察がなされている。
- ・ 着脱時のポイントが全員共有であるならば、下線部は不要。

研修プロローグ ⑤

■介護職員が大切にしたいと思っている記録内容

- ・利用者の思いとしての言葉や行動
- ・介護する中で、気になった事、観察した内容
- ・いつもの介護の方法、異なる方法の理由や何故そうしたかの理由
- ・家族や多職種から得た情報

■大切にしたい内容をすべて入れた時の課題

- ・記入に時間がかかる。
- ・項目立てが見えないと、読みにくい、わかりにくい、必要な情報が読み取れない。読み過ごしてしまう。

➔介護職員が気づいたことは、非常に重要な視点なので大事にしたい

研修プロローグ ⑥

■多職種からみた介護記録

- ・主観的情報と客観的情報がわかりにくい
- ・なぜその行為をしたのかが見えにくい
- ・計画に沿った介護経過が見えにくい
- ・記録と記録の関連性を、だれが、いつ、どのように評価しているのかわかりにくい

研修目的

- 項目立てられた介護記録法を導入し、導入過程における課題や導入による効果を把握するための施行調査である。
介護記録法の標準化に向けた検討とする。

【キーワード】

項目立てられた介護記録の導入。

導入過程の課題抽出。効果測定。介護記録法の標準化に向けて。

経時記録の簡易項目版とは

■経時記録の簡易項目化版として

- 1 介護職員の見たこと聞いたこと、行ったこと、日ごろの介護から気づいたことの3点について記入する内容。
- 2 毎日行っている介護行為は選択できるようなチェック項目化して記入する内容。
- 3 1. 2. に注目して定期的にアセスメントし、評価したりする内容。

以上1～3の内容と実施上の工夫が網羅されたものとする。

そこで、どのような記録用紙にするかなどは、施設の状況に応じて工夫が必要である。

経時記録の工夫版を活用しての考えられる効果

■だれが見てもわかりやすい記録になる

①見たこと、聞いたこと②行ったこと③気づいたこと

➔3つを整理することで見やすく、状態変化がわかりやすくなる

■記録時間が短縮できる

➔利用者に関わる時間が多くなる。利用者の満足度につながる。

■介護行為の質の向上につながる

➔事例検討などがしやすくなる。

個々の利用者にあった介護方法を考えることができる。

アセスメント能力向上につながる。

リスクマネジメントに活用できる。

経時記録の工夫版の内容例 ①

1. 介護職員の見たこと聞いたこと、行ったこと、日ごろの介護から気づいたことの3点について記入する内容。

●見たこと、聞いたこと

食事をどのくらい食べたか。皮膚の状態はどうであったか。等利用者や家族が言ったこと。

●行ったこと

行った介護行為、見たこと、聞いたことに対して行ったこと。

●気づいたこと

見たこと、聞いたこと、行ったこと等での利用者の状態の変化。

→気づきが毎回あるとも言い難い、介護職員の感性や経験で異なる。

この項目は工夫が必要。

経時記録の工夫版の内容例 ②

2. 毎日行っている介護行為は選択できるようなチェック項目化して記入する内容。

●食事記録

食事摂取量、介助方法。水分摂取内容、量。

●排泄記録

排泄介助方法、時間と排泄物状態。

●いつもの介助方法（上記内容に含むことも想定できる）

全介助、一部介助（〇〇は〇〇のように介助）、自立。

➔これらの項目は、ICT活用可能な項目

いつもと異なる、気づきなどの変化は、特記事項の活用で対応

経時記録の工夫版の内容例 ③

3. 1 および 2 に注目して定期的にアセスメントし、評価したりする内容。

●定期的アセスメントと評価

いつ行うか：業務帯ごと。1週間。1か月。

誰が行うか：指導者、チームリーダー、担当介護者。

どのように：項目ごとの記録、記録と記録を連動する
気づきと状態の連動が確認できる

事例を使用しての経時記録演習 留意点

目的：

「このようにすれば、わかりやすくなる」という視点で実施する。

■必要な情報が網羅されているわけではない。

■ある事象が起こった時の記録なので、通常の記録とは多少異なると考える。

➡経験値の違いで、研修を受ける職員から、この記録でよいのかという意見が出るのが考えられるが、この場合は「このようにしたらわかりやすくなる」という考え方で、研修を受けることを事前告知する。

施設系事例

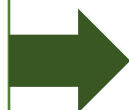
■事例紹介

利用者年齢/性別	88歳女性	
診断名	アルツハイマー型認知症 骨粗鬆症 尿路感染症の既往有	
生活状況	<ul style="list-style-type: none">7年前に認知症の診断をうけ在宅で夫が介護していたが、5年前に夫が死亡。息子夫婦が同居して介護していたが、共稼ぎの夫婦では介護が難しいということで、施設に入所。入所後は、帰宅願望が強く夕方施設を徘徊するなどの状態が続いていた。不安の少ない時にはボランティアさんと一緒に洗濯物を畳んだりしていることがある。1週間前に風邪をひき、高熱のため、緊急入院。退院後下肢筋力の低下が著明で、自分から歩くことが少なくなった。	
ADL等の状況	食事	自力で摂取できる
	排泄	促せばトイレに行くことができるが、間に合わずに失禁することもあるためリハビリパンツを使っている
	移動	退院後は歩行介助が必要
	入浴	退院後はリフト浴を利用
	会話	通じる時もあるが、退院後は口数が少なくなっている

記録に欲しい内容とその理由

経時記録法

夜勤者から、夜間一人でトイレの前で失禁し、座り込んでいる花さんを介護職員がみつける。座り込んで立とうとしない利用者を、他の職員と二人で自室まで介助して戻ってもらい、衣服を着替えてもらった。着替える時に、抵抗があり、夜も声を出すことはないが、ほとんど寝ていない状況であった。という報告がある。その日は、食事に誘導してもベッドから起き上がることを強く拒否、時間を変えて誘導しても同じ状態であった。ベッドサイドに食事を持っていくと、食べたいとはいうが起き上がることは拒否。水分摂取が不足しないように、ストローで飲んでもらうことにした。むせ等はみられず発熱もない。日曜であったため、月曜日に看護師に報告することとした。夕方排泄確認表から花さんがトイレに行っておらず、失禁もしていないことが確認できた。



経時記録工夫版

他の職員と二人で自室まで介助

➡どのように介助したのか

(行ったこと) 基本の介助方法が決まっていればそのように行ったことで可。

➡その時の利用者の状態はどのようであったか

(見たこと、聞いたこと、気づいたこと)

利用者の状態を知る情報となり、気づきに行動につながる

着替える時に、抵抗があり、

➡どのように介助したのか

(行ったこと) 基本の介助方法が決まっていればそのように行ったことで可。

➡その時の利用者の状態はどのようであったか

(見たこと、聞いたこと、気づいたこと)

食べたいとはいうが起き上がることは拒否。

➡どのように介助したのか

(行ったこと)

➡その時の利用者の状態はどのようであったか

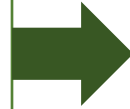
(見たこと、聞いたこと、気づいたこと)

記録法による記録の違い

経時記録法

夜勤者から、夜間一人でトイレの前で失禁し、座り込んでいる花さんを介護職員が見つかる。座り込んで立とうとしない利用者を、他の職員と二人で自室まで介助して戻ってもらい、衣服を着替えてもらった。着替える時に、抵抗があり、夜も声を出すことはないが、ほとんど寝ていない状況であった。という報告がある。

その日は、食事に誘導してもベッドから起き上がることを強く拒否、時間を変えて誘導しても同じ状態であった。ベッドサイドに食事を持っていくと、食べたいとはいうが起き上がることは拒否。水分摂取が不足しないように、ストローで飲んでもらうことにした。むせ等はみられず発熱もない。日曜であったため、月曜日に看護師に報告することとした。夕方排泄確認表から花さんがトイレに行っておらず、失禁もしていないことが確認できた。



経時記録工夫版

事実（見たこと、聞いたこと）

夜間トイレの前で失禁して、座り込んでいたのを介護職員が見つかる。

行動（行ったこと）

立ち上がりに応じないので、職員二人で抱えるようにして自室に戻る。

事実（見たこと、聞いたこと）

着替えるときに抵抗あり。声を出すことはないがほとんど寝ていない。

事実（見たこと、聞いたこと）

食事誘導の際、起き上がりを強く拒否。

「食べたい」臥床のままストローで水分摂取。
むせ無し。50cc程度摂取。

行動

時間を変えて誘導するが拒否は続く。

水分摂取。定期検温36・1℃。

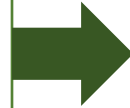
気づき

何故拒否するのだろうか。食事を拒否することは今まではない。

記録法による記録の違い

経時記録法

夜勤者から、夜間一人でトイレの前で失禁し、座り込んでいる花さんを介護職員がみつける。座り込んで立とうとしない利用者を、他の職員と二人で自室まで介助して戻ってもらい、衣服を着替えてもらった。着替える時に、抵抗があり、夜も声を出すことはないが、ほとんど寝ていない状況であった。という報告がある。その日は、食事に誘導してもベッドから起き上がることを強く拒否、時間を変えて誘導しても同じ状態であった。ベッドサイドに食事を持っていくと、食べたいとはいいうが起き上がることは拒否。水分摂取が不足しないように、ストローで飲んでもらうことにした。むせ等はみられず発熱もない。日曜であったため、月曜日に看護師に報告することとした。夕方排泄確認表から花さんがトイレに行っておらず、失禁もしていないことが確認できた。



経時記録工夫版

行動（行ったこと）

明日、看護師に報告予定。

事実（見たこと、聞いたこと）

昼食誘導拒否続く。

行動（行ったこと）

臥床での水分摂取本日トータル300cc。

排泄表確認で、日中花さんはトイレに行っていない。

気づき

排泄表確認で、日中花さんはトイレに行っていない。
失禁なし。

施設事例をアセスメントにいかす

■この事例をアセスメントにいかすと

事実（見たこと、聞いたこと）

- ・夜間トイレの前で失禁して、座り込んでいたのを介護職員が見つかる。

行動（行ったこと）

- ・立ち上がりに応じないので、職員二人で抱えるようにして自室に戻る。

事実（見たこと、聞いたこと）

- ・着替えるときに抵抗あり。声を出すことはないがほとんど寝ていない。

事実（見たこと、聞いたこと）

- ・食事誘導の際、起きあがりを強く拒否。時間を変えて誘導するが拒否は続く。

気づき

- ・何故拒否するのだろうか。食事を拒否することは今まではない。

➡トイレ前で転倒したことで大腿骨頸部骨折をおこしていた。立ち上がらない。起きあがりを強く拒否。は身体を動かすと痛みが生じるからの反応。

訪問系事例

■事例紹介

利用者年齢/性別	78歳女性	
診断名	アルツハイマー型認知症	
生活状況	<ul style="list-style-type: none">40年前に夫を亡くしてから、鮮魚店を一人で切り盛りしていた。20年前に長男夫婦が鮮魚店を手伝うようになり、長男夫婦と同居。長男58歳、嫁50歳長女は他県に嫁いでいる。嫁ぎ先も商売をしており帰省は年1回程度。3年前にアルツハイマー型認知症の診断を受けるが、大きな症状変化はなく生活していた。	
ADL等の状況	食事	嫁の準備した食事を自力で摂取できる
	排泄	促せばトイレに行くことができるが、間に合わずに失禁することもあるためリハビリパンツを使っている
	移動	支障はない。
	入浴	2～3日に1回、嫁が入浴の介助を行っている。
	会話	店の前に椅子を置き、日中はなじみの客と話すこともできていた。

記録法による記録の違い

経時記録法

8月25日 嫁から「昨夜は夜中に起き出し、意味不明のことをいって騒いで、その対応で私の方がつかれました」という話がある。ご飯、味噌汁、焼き魚、野菜の煮つけを準備、食欲が進まないのか、味噌汁は飲むが、他の食事にはあまり手を出さない。

8月26日 嫁から「暑くて寝付かれないのに、お母さんが夜騒ぐので、こちらの体力が持つのか不安」という話が聞かれる。ご本人の食欲も低下気味。ご飯、味噌汁、煮魚、野菜のお浸しにはあまり手をつけず、食後に出したスイカは喜んで食べてくれた。

8月29日 訪問時利用者が、「こんなもの食べれない。毒を入れてるんでしょ、私が死ねばいいと思っているんでしょ」と店が休みで嫁が準備してくれていた食事にも大声で文句を言っている。なだめても収まる気配はなく、嫁ともども、どうしたら良いか不安になった。

9月3日 訪問時、大量の便失禁がみられた。その対応に嫁と追われたが、すっきりしたのか、その後機嫌よく、ソーメンをおいしそうに食べられた。

9月5日 「昨日の夜は涼しかったせいか、良く寝てくれたので、助かった」と嫁の体調も良い。利用者も機嫌よく、昔話をしてくれる。



経時記録工夫版

事実（見たこと、聞いたこと）

8月25日

嫁から「昨夜は夜中に起き出し、意味不明のことをいって騒いで、その対応で私の方がつかれました」
食事内容：ご飯、味噌汁、焼き魚、野菜の煮つけ。
味噌汁は飲むが、他の食事にはあまり手を出さない。

気づき

不眠で、食欲がないのか。

行動（行ったこと）

食欲について確認するが、返事はない。

事実（見たこと、聞いたこと）

8月26日

嫁から「暑くて寝付かれないのに、お母さんが夜騒ぐので、こちらの体力が持つのか不安」
食事内容：ご飯、味噌汁、煮魚、野菜のお浸し。食事にあまり手をつけない。食後のスイカは食べる。

記録法による記録の違い

経時記録法

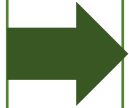
8月25日 嫁から「昨夜は夜中に起き出し、意味不明のことをいって騒いで、その対応で私の方がつかれました」という話がある。ご飯、味噌汁、焼き魚、野菜の煮つけを準備、食欲が進まないのか、味噌汁は飲むが、他の食事にはあまり手を出さない。

8月26日 嫁から「暑くて寝付かれないのに、お母さんが夜騒ぐので、こちらの体力が持つのか不安」という話が聞かれる。ご本人の食欲も低下気味。ご飯、味噌汁、煮魚、野菜のお浸しにはあまり手をつけず、食後に出したスイカは喜んで食べてくれた。

8月29日 訪問時利用者が、「こんなもの食べれない。毒を入れてるんでしょ、私が死ねばいいと思っているんでしょ」と店が休みで嫁が準備してくれていた食事にも大声で文句を言っている。なだめても収まる気配はなく、嫁ともども、どうしたら良いか不安になった。

9月3日 訪問時、大量の便失禁がみられた。その対応に嫁と追われたが、すっきりしたのか、その後機嫌よく、ソーメンをおいしそうに食べられた。

9月5日 「昨日の夜は涼しかったせいか、良く寝てくれたので、助かった」と嫁の体調も良い。利用者も機嫌よく、昔話をしてくれる。



経時記録工夫版

8月29日

事実（見たこと、聞いたこと）

「こんなもの食べれない。毒を入れてるんでしょ、私が死ねばいいと思っているんでしょ」
嫁が準備した食事にも大声で文句を言っている。

行動（行ったこと）

なだめても収まる気配なし。

9月3日

事実（見たこと、聞いたこと）

訪問時大量の便失禁。

行動（行ったこと）

嫁とシャワー浴、更衣、環境整備。

気づき

すっきりしたのか

9月5日

事実（見たこと、聞いたこと）

嫁から「昨日の夜は涼しかったせいか、良く寝てくれたので、助かった」嫁体調良い。本人も機嫌よく、昔話をしてくれる。

記録法による記録の違い

経時記録法

8月25日 嫁から「昨夜は夜中に起き出し、意味不明のことをいって騒いで、その対応で私の方がつかれました」という話がある。ご飯、味噌汁、焼き魚、野菜の煮つけを準備、食欲が進まないのか、味噌汁は飲むが、他の食事にはあまり手を出さない。

8月26日 嫁から「暑くて寝付かれないのに、お母さんが夜騒ぐので、こちらの体力が持つのか不安」という話が聞かれる。ご本人の食欲も低下気味。ご飯、味噌汁、煮魚、野菜のお浸しにはあまり手をつけず、食後に出したスイカは喜んで食べてくれた。

8月29日 訪問時利用者が、「こんなもの食べれない。毒を入れてるんでしょ、私が死ねばいいと思っているんでしょ」と店が休みで嫁が準備してくれていた食事にも大声で文句を言っている。なだめでも収まる気配はなく、嫁ともども、どうしたら良いか不安になった。

9月3日 訪問時、大量の便失禁がみられた。その対応に嫁と追われたが、すっきりしたのか、その後機嫌よく、ソーメンをおいしそうに食べられた。

9月5日 「昨日の夜は涼しかったせいか、良く寝てくれたので、助かった」と嫁の体調も良い。利用者も機嫌よく、昔話をしてくれる。

経時記録工夫版

他の食事にはあまり手を出さない。

→事実（見たこと、聞いたこと）に対しての気づきが不足。

- ・食事を食べないのは何故か。何故と考えると次に行動として、他の生活情報を確認することができる。
- ・記録を確認したサービス提供責任者がその視点を伝えることで、訪問介護員の観察の視点が明確にできる。

「暑くて寝付かれないのに、お母さんが夜騒ぐので、こちらの体力が持つのか不安」

→事実（見たこと、聞いたこと）に対しての行動として、その内容を誰かに報告したのか否か、その旨を記述する、行動（行ったこと）につながる。

在宅事例をアセスメントにいかす

■この事例をアセスメントにいかすと

事実（見たこと、聞いたこと）から

- ・ 8月25日～9月5日の訪問。暑い日が続く～涼しくなった
 - ・ 水分のある食事には手をつけている
 - ・ 攻撃的な言葉が聞かれる
 - ・ 大量の排便があった
 - ・ 本人の機嫌がよくなった
- 脱水による便秘があった。

■事実を総合的に見られる職員が読むと、早期に脱水の症状に気づき、改善する行動につながる。

経時記録の工夫版を施設で運用するために ①

■記録用紙の工夫例 1

- ・ 利用者の介護における目標を明確にする
- ・ 具体的な介護行為の具体的手順を一覧にしておく
- ・ ①見たこと、聞いたこと②行ったこと③気づいたことの記入欄を分けて用意してみる

【想定されること】

- ・ 介護目標が明確でない場合がある
 - ➔ 短期の目標を明確にして実施してみる
- ・ 具体的な介護行為の具体的手順が不明確
 - ➔ 利用者個々の特性に応じた

経時記録の工夫版を施設で運用するために ②


■経時記録の工夫版をいかすための案

- ・記録用紙を変更してみる

【現状として多くある記録用紙の流れ】

時系列に縦に流れているものが多い。

→わかりにくさにつながっていないか？



時間	介護行為

経時記録の工夫版を施設で運用するために ③

【案としての記録用紙の流れ】

時系列と事実・行動・気づきの応用

→縦と横を連動してみる

わかりやすさにつながるのでは？



時間	事実 (見たこと・聞いたこと)	行動 (行ったこと・理由)	気づき	<u>なんでも 記入欄</u>

研修講師の役割

【役割を強く意識する】

- 研修を行う講師職員が、記録を変化させる基になる。
目的・目標を明確にし講師の思いを、研修を受ける職員に伝える。
何故したいかの理由を明確に説明できる。
- 研修を受けた職員が、記録向上に向けた意識・意欲が高まる。
そのことが、介護の質向上、介護内容の検証・修正につながる。
介護チームの業務向上につながる。ことが共通となる。

実施上の注意と工夫 ①

【注意と工夫】

- 業務多忙の不満の種にしてはいけない
- 批判の場にしてはいけない。研修により、職員間で批判関係を作り、お互いの意識を低下するような状態にしてはいけない。
- しかし、指導者の方向性は常に明確にしなければいけない。
- 目的を常に確認しあう、そこに向けた小さな目標を明確にし、実施と評価を繰り返すことが重要。

■いつまでに、〇〇をやってみよう。

なぜならば、こんな効果があるんだ。できない場合も重要な過程である、何故できないかは問題ではなく、次への重要な情報となり、情報分析に必要なことだから、皆で共有しよう。

実施上の注意と工夫 ②

【工夫点】

- ・ リーダーシップを発揮できる指導者が中心となりチームを作る
チームには批判的な人も必要（将来性）
経験者は、その人なりの考えがある
新人には、その人なりの悩みがある
→ある程度多様な人材がいたほうが、チーム作りに役立つ
- ・ 指導者は、チームの目的・目標を常に明確に示す役割
→方向性を明確にすることで道筋がずれない
- ・ 定期的な時間確保し、目的・目標を確認し、現状を共有する。
→新たな課題発見で、微調整が可能になる。やりにくさの解消につながる。

経時記録の工夫版を施設で運用するために

■講師の準備

1 自職場の記録について再確認。

- ・記録の種類の確認。
- ・どのような場や時間で記録される内容であるかの確認。

➡すべての記録を一気に変更することは難しい現状が想定される。

➡どの記録の何を変更すれば、変化が見えやすいかを探る。

2 研修に使える記録の確認。

- ・良いと思う記録、工夫が必要だと思う記録の確認。

➡変化させると何が見えるか、身近な素材で協力体制を構築。

おわりに

- 介護記録に必要なことは何かを考え、実践することが重要
記録に残すための介護は、利用者中心の介護ではない。
コミュニケーションは利用者との関りにおいて重要な行為である。
しかし、記録に残すための介護は、開かれた質問よりも、閉じられた質問が多くなることを、介護職員は意識しておかなくてはいけない。
開かれた質問や意図的な関り
利用者の表情・状態観察からの行動
利用者の思いを知る、気づく
記録に残す
➡ 利用者の生活の質向上、介護の質向上にいかすことができる。